

2011年度傷害報告 集計結果

財団法人東京都スキー連盟
教育本部安全対策委員会

2011年度傷害事故集計表

提出201件 受講者数 5751名 受傷者数 9名 受傷率 0.16%

設 問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計		
傷害保険	01	自己傷害保険	5	02	対人賠償	0	03	対人対物賠償	2		自己+対人	0	自己+対人対物	2	10
					対物賠償	0					自己+対物	1			
性別	04	男性	6	05	女性	3									9
年齢	06	6歳未満	0	07	7-12	0	08	13-15	0	09	16-20	0	10	21-25	0
	11	26-30	0	12	31-40	0	13	41-50	2	14	51-60	1	15	61歳以上	6
技術レベル	16	指導者	2	17	上級者	3	18	中級者	3	19	初級者	1	20	初心者	0
体格	21	大きい	2	22	普通	6	23	小さい	1						9
滑走日数	24	0-3	4	25	4-6	1	26	7-10	2	27	11-15	1	28	16-20	1
	29	21-30	0	30	31日以上	0									9
休養	31	充分	8	32	不充分	1									9
準備体操	33	充分	8	34	不充分	1									9
傷害名	35	捻挫	1	36	骨折	2	37	脱臼	2	38	切創	0	39	打撲	2
	40	靭帯損傷	2	41	擦過傷・刺創	1									10
傷害場所	42	前頭部	0	43	後頭部	0	44	顔面	0	45	頸部	0	46	肩部	3
	47	上腕部	0	48	前腕部	0	49	手指部	0	50	胸部	0	51	背部	0
	52	腹部	0	53	腰部	0	54	大腿部	1	55	膝部	4	56	下腿部	2
	57	足首	0	58	その他	0									10
全治日数	59	7日未満	2	60	8-14	1	61	15-21	0	62	22-30	1	63	31-60	0
	64	61-90	1	65	91以上	2	66	未受診	1						8
発生状況	67	講習中	6	68	自由時間	2	69	練習中	1	70	競技中	0			9
発生時刻	71	9時まで	1	72	12時まで	4	73	15時まで	3	74	17時まで	1	75	ナイター	0
	76	その他	0												9
雪質	77	粉雪	0	78	湿雪	0	79	新雪	0	80	深雪	0	81	ザラメ	0
	82	アイスバーン	0	83	踏み固めた雪	9	84	溶けかけた雪	0	85	その他	0			9
斜面の傾斜	86	緩斜面	0	87	中斜面	4	88	急斜面	5						9
斜面の状況	89	スムーズ	6	90	ギャップ・こぶ	3	91	ラフ	0	92	深雪	0			9
ゲレンデ状況	93	混雑	0	94	普通	3	95	すいていた	6						9
ゲレンデ整備	96	良い	5	97	普通	4	98	悪い	0						9
原因	99	自己転倒	6	100	衝突	2									8
自己転倒	101	回転失敗	3	102	人・物の回避	1	103	スピード・オーバー	2	104	技術不足	0			6
衝突	105	自分から	1	106	衝突された	1									2
衝突相手	107	人	2	108	物(人以外)	1									3
相手の状況	109	講習中	0	110	自由時間	0	111	練習中	0	112	競技中	0			0
ビンディング	113	はずれた	5	114	はずれない	4									9
調節方法	115	知っていた	6	116	知らない	3									9
調整者	117	自分で	4	118	販売店	4	119	指導員	0	120	パトロール	0	121	知人・友人	0
	122	その他・不明	1												9
開放強度	123	強すぎ	0	124	適切	8	125	弱すぎ	0						8
流れ止め	126	ブレーキ	0	127	ストラップ	0	128	その他	0	129	無し	0			0

2010年度傷害事故集計表

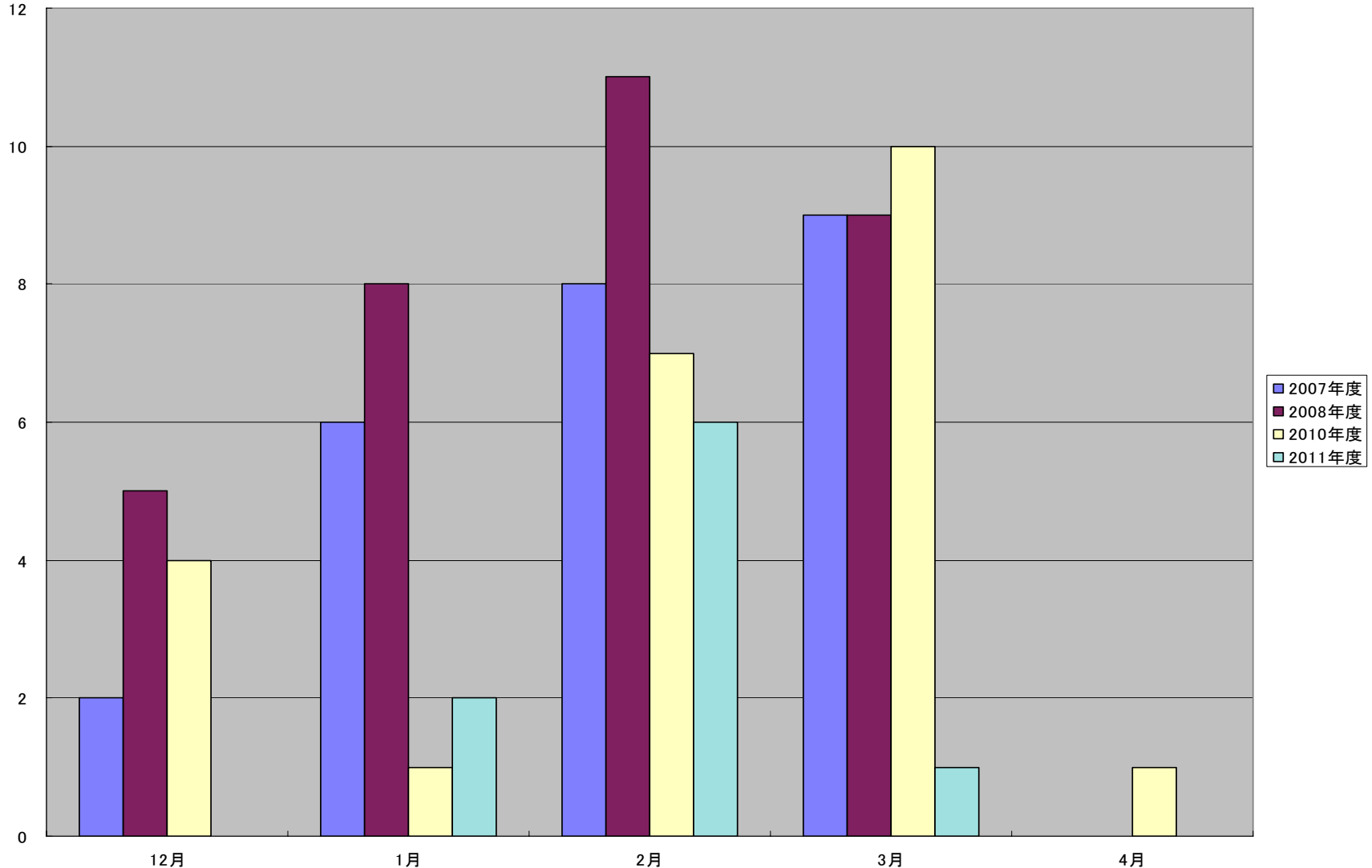
提出287件 受講者数 7095名 受傷者数 24名 受傷率 0.34%

設 問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計			
傷害保険	01	自己傷害保険	5	02	対人賠償 対物賠償	1 3	03	対人対物賠償	4		自己+対人 自己+対物	5 0		自己+対人対物	5	23
性別	04	男性	7	05	女性	17										24
年齢	06	6歳未満	0	07	7-12	4	08	13-15	0	09	16-20	1	10	21-25	0	
	11	26-30	0	12	31-40	4	13	41-50	4	14	51-60	5	15	61歳以上	6	24
技術レベル	16	指導者	2	17	上級者	5	18	中級者	10	19	初級者	4	20	初心者	2	23
体格	21	大きい	1	22	普通	15	23	小さい	7							23
滑走日数	24	0-3	12	25	4-6	3	26	7-10	5	27	11-15	0	28	16-20	1	
	29	21-30	1	30	31日以上	1										23
休養	31	充分	22	32	不充分	1										23
準備体操	33	充分	22	34	不充分	1										23
傷害名	35	捻挫	4	36	骨折	9	37	脱臼	0	38	切創	1	39	打撲	4	
	40	靭帯損傷	5	41	擦過傷・刺創	2										25
傷害場所	42	前頭部	0	43	後頭部	0	44	顔面	1	45	頸部	0	46	肩部	3	
	47	上腕部	1	48	前腕部	0	49	手指部	0	50	胸部	1	51	背部	0	
	52	腹部	0	53	腰部	0	54	大腿部	0	55	膝部	9	56	下腿部	6	
	57	足首	4	58	その他	1										26
全治日数	59	7日未満	4	60	8-14	1	61	15-21	1	62	22-30	5	63	31-60	6	
	64	61-90	2	65	91以上	1	66	未受診	1							21
発生状況	67	講習中	15	68	自由時間	5	69	練習中	3	70	競技中	0				23
発生時刻	71	9時まで	0	72	12時まで	10	73	15時まで	11	74	17時まで	2	75	ナイター	0	
	76	その他	0													23
雪質	77	粉雪	3	78	湿雪	3	79	新雪	2	80	深雪	1	81	ザラメ	3	
	82	アイスバーン	2	83	踏み固めた雪	5	84	溶けかけた雪	3	85	その他	1				23
斜面の傾斜	86	緩斜面	6	87	中斜面	9	88	急斜面	7							22
斜面の状況	89	スムーズ	12	90	ギョップ・こぶ	4	91	ラフ	6	92	深雪	1				23
グレンヂェ状況	93	混雑	1	94	普通	13	95	すいていた	9							23
グレンヂェ整備	96	良い	7	97	普通	12	98	悪い	3							22
原因	99	自己転倒	19	100	衝突	4										23
自己転倒	101	回転失敗	15	102	人・物の回避	3	103	スビート・オーバー	0	104	技術不足	1				19
衝突	105	自分から	2	106	衝突された	1										3
衝突相手	107	人	2	108	物(人以外)	1										3
相手の状況	109	講習中	1	110	自由時間	0	111	練習中	0	112	競技中	0				1
ヒンヂェック	113	はずれた	11	114	はずれない	12										23
調節方法	115	知っていた	18	116	知らない	4										22
調整者	117	自分で	2	118	販売店	18	119	指導員	0	120	パトロール	0	121	知人・友人	0	
	122	その他・不明	2													22
開放強度	123	強すぎ	1	124	適切	19	125	弱すぎ	0							20

月別の受傷者数

受傷者数は、例年2月、3月が多い傾向。

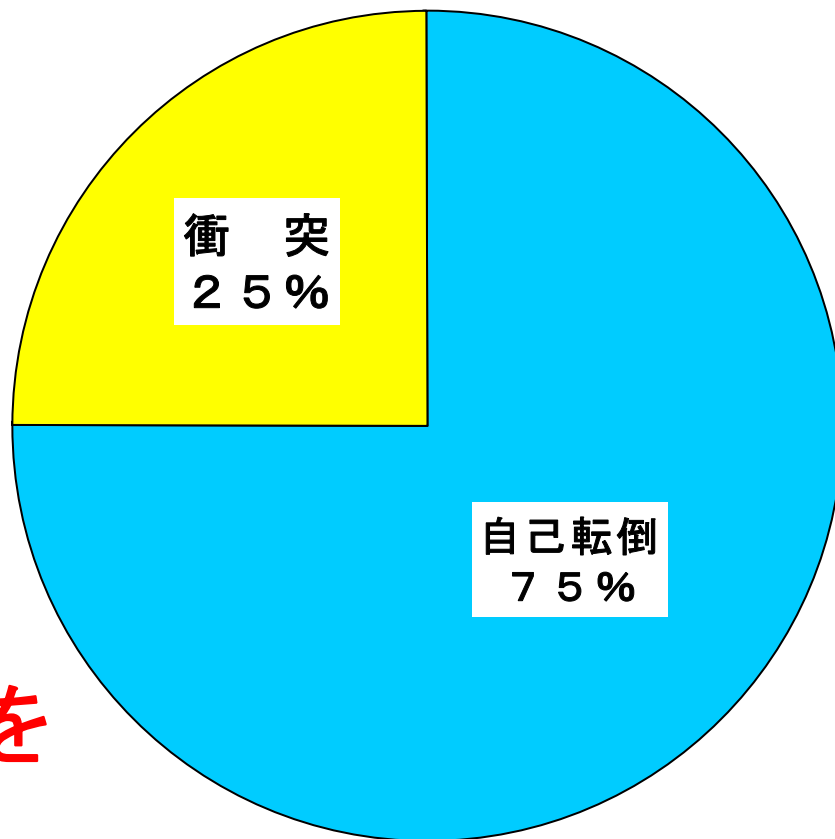
2011年度は、3月が少ない。震災の影響で行事が少なかったため？



受傷原因

衝突事故に比べ
自己転倒優位が続く

↑
講習中の統計



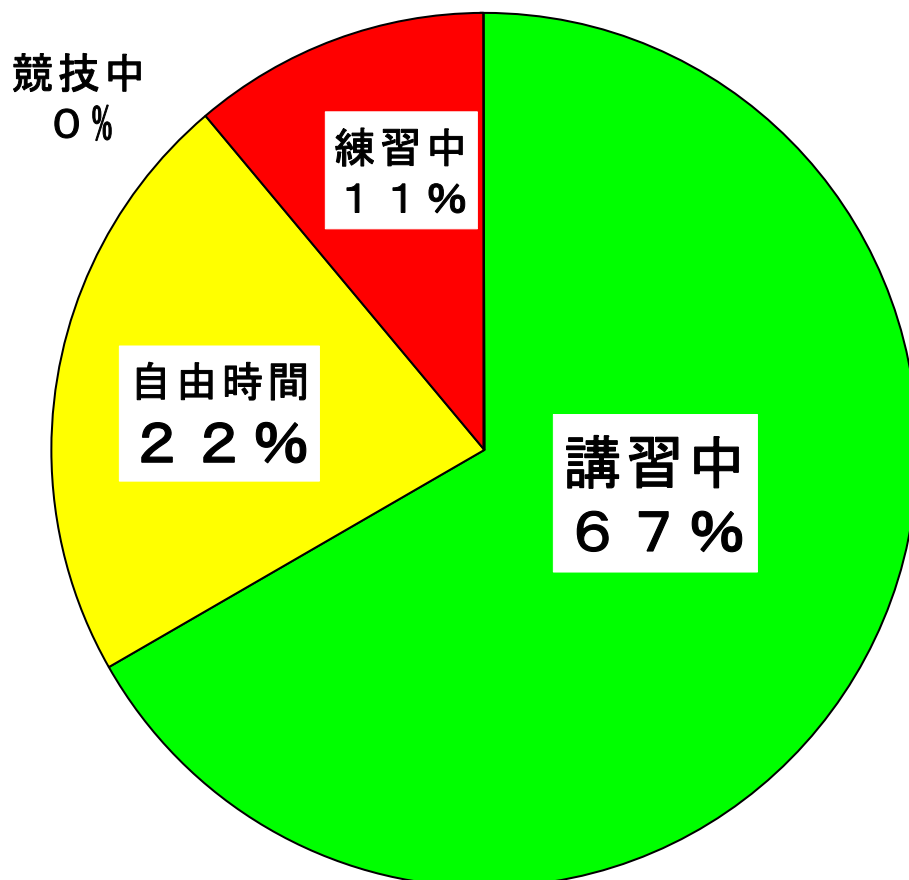
無理のない技術指導を

傷害発生時の状況

- ・講習中の事故が圧倒的に多い
- ・自由時間や練習中にも事故に遭遇



- ・生徒の安全確保を
- ・単独でも事故を防げる技術/安全指導も



衝突時の状況

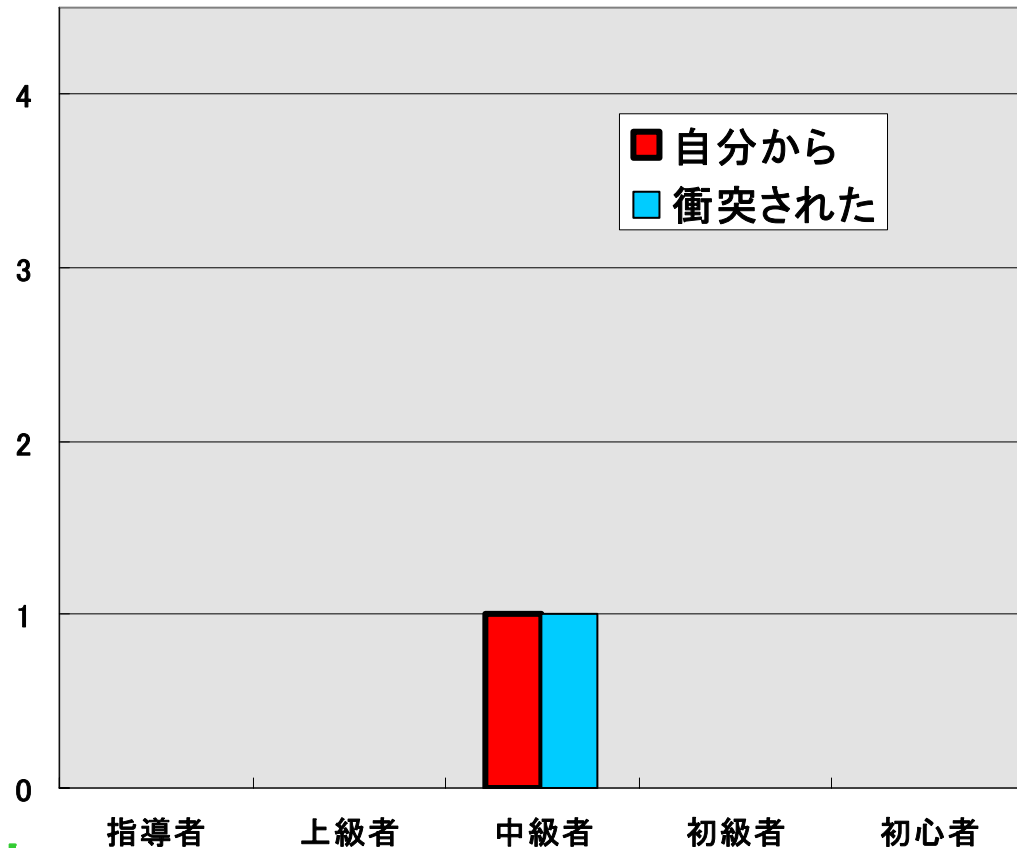
講習中に衝突する

- 指導者のラインを滑ろうとする
- 課題に集中して滑る
- 慣れない課題をこなしきれない

周囲への注意が疎かに
◎指導者の注意が重要

自由時間にも
周囲への注意不十分

◎指導を通じて注意喚起

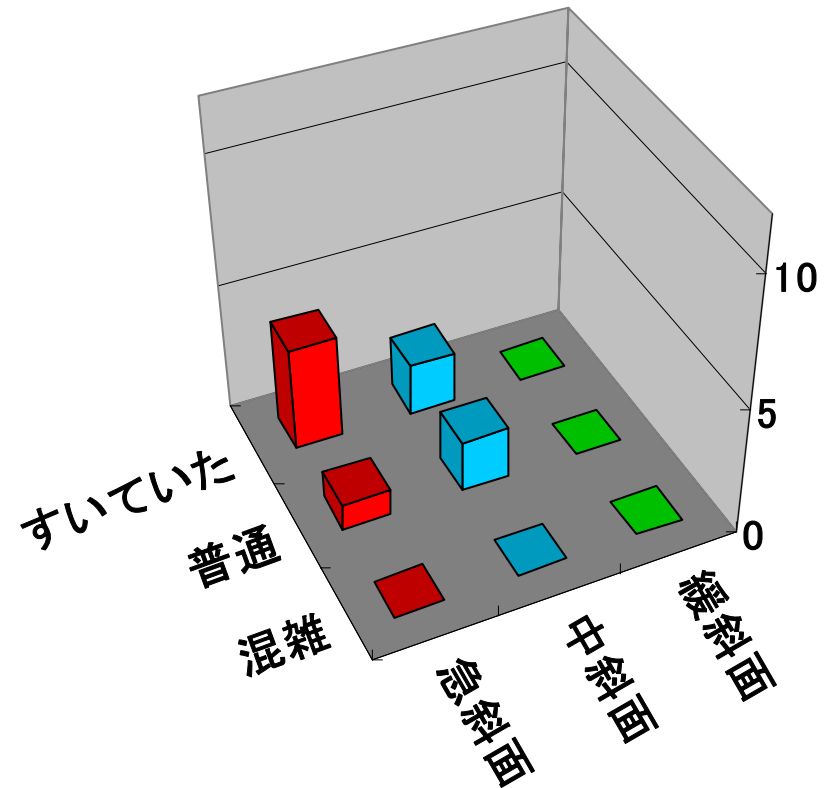


斜度、混雑状況と傷害度数

混雑していない
斜面で事故が多い

正しい状況判断

- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認

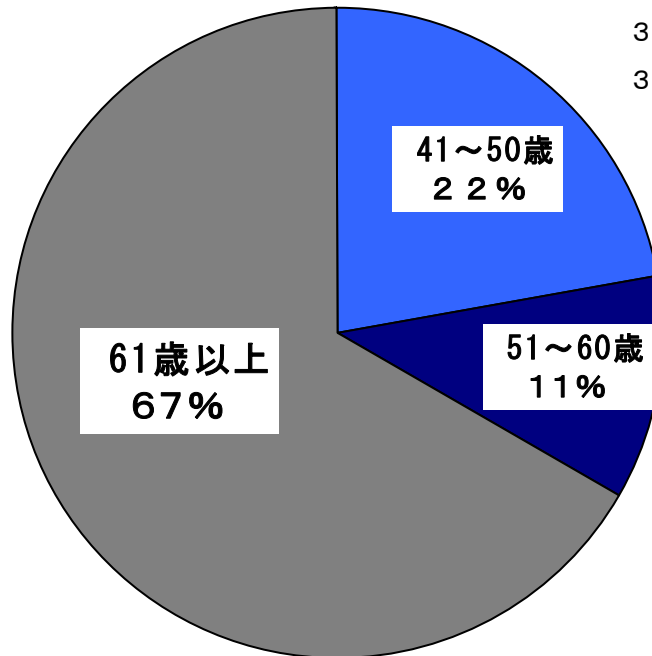
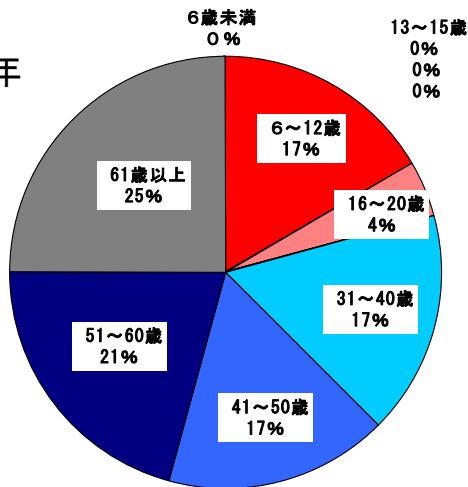


全受傷者に対する年齢層別比率

受講者の
年齢分布を反映して
40歳代から上に広く分布

6歳未満	0%
6～12歳	0%
13～15歳	0%
16～20歳	0%
21～25歳	0%
26～30歳	0%
31～35歳	0%
36～40歳	0%

2010年

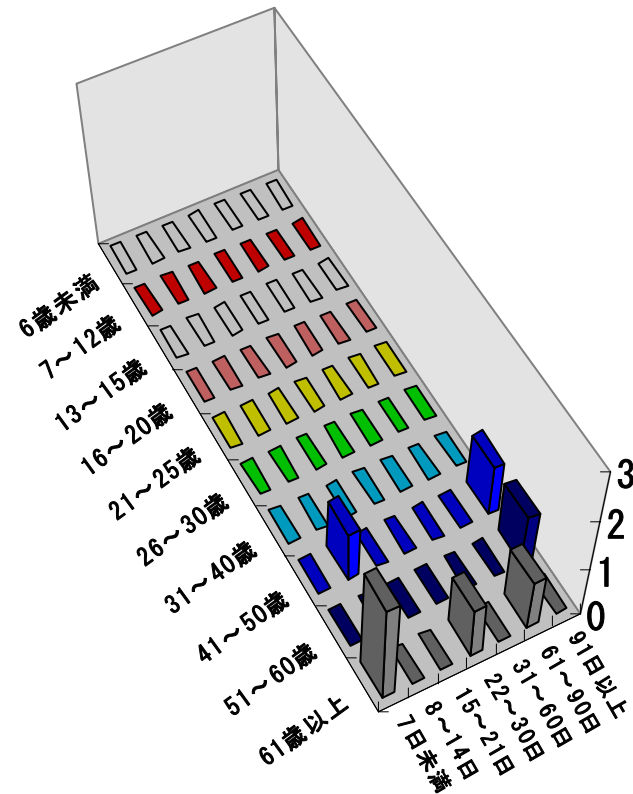


年齢と障害重度との関係

重傷と軽傷とに2極化

中高年は重症のケースが多い

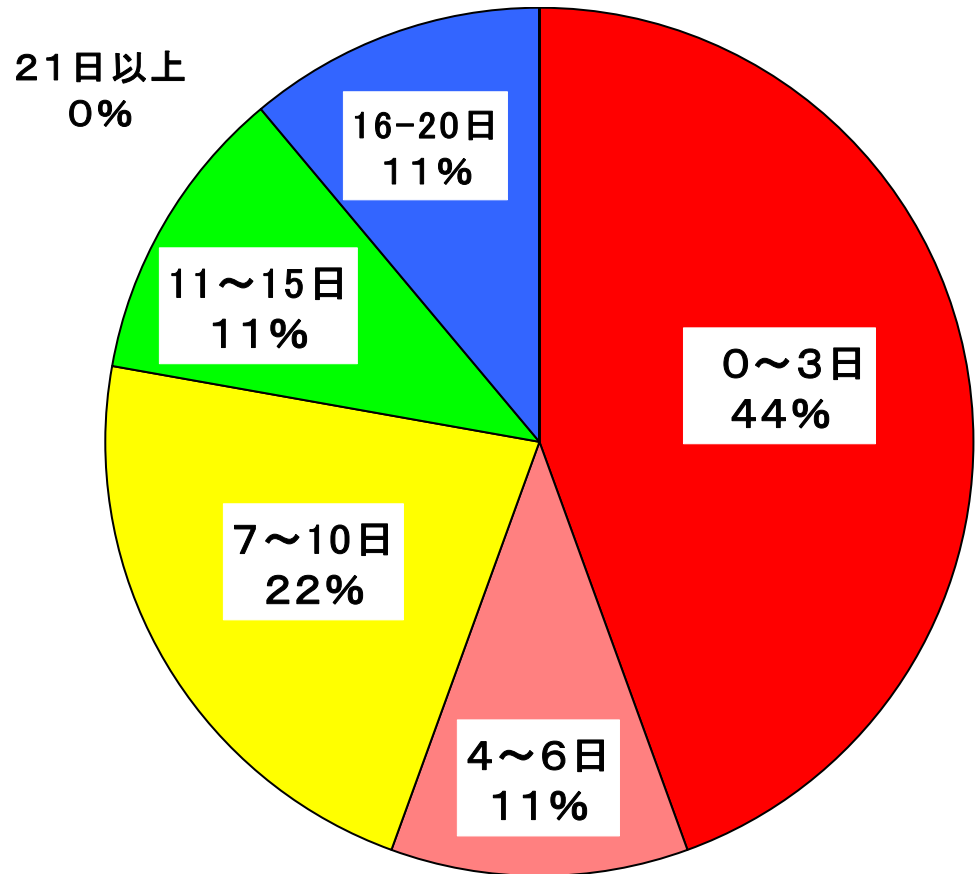
運動能力・体力
自己の意識と
実際との乖離



受傷までの滑走日数

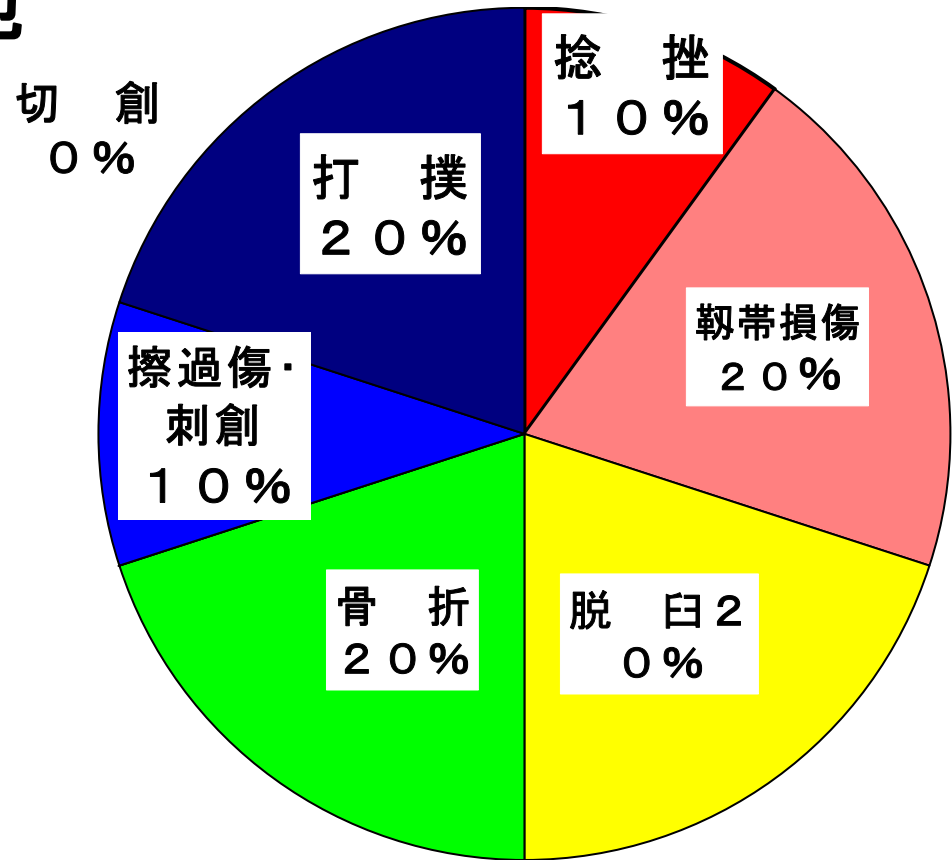
滑走日数が
少ないうちほど、
傷害事故をおこし
やすい

思い出すまで
無理をしない、
させない
思い出しても
気を引き締めて



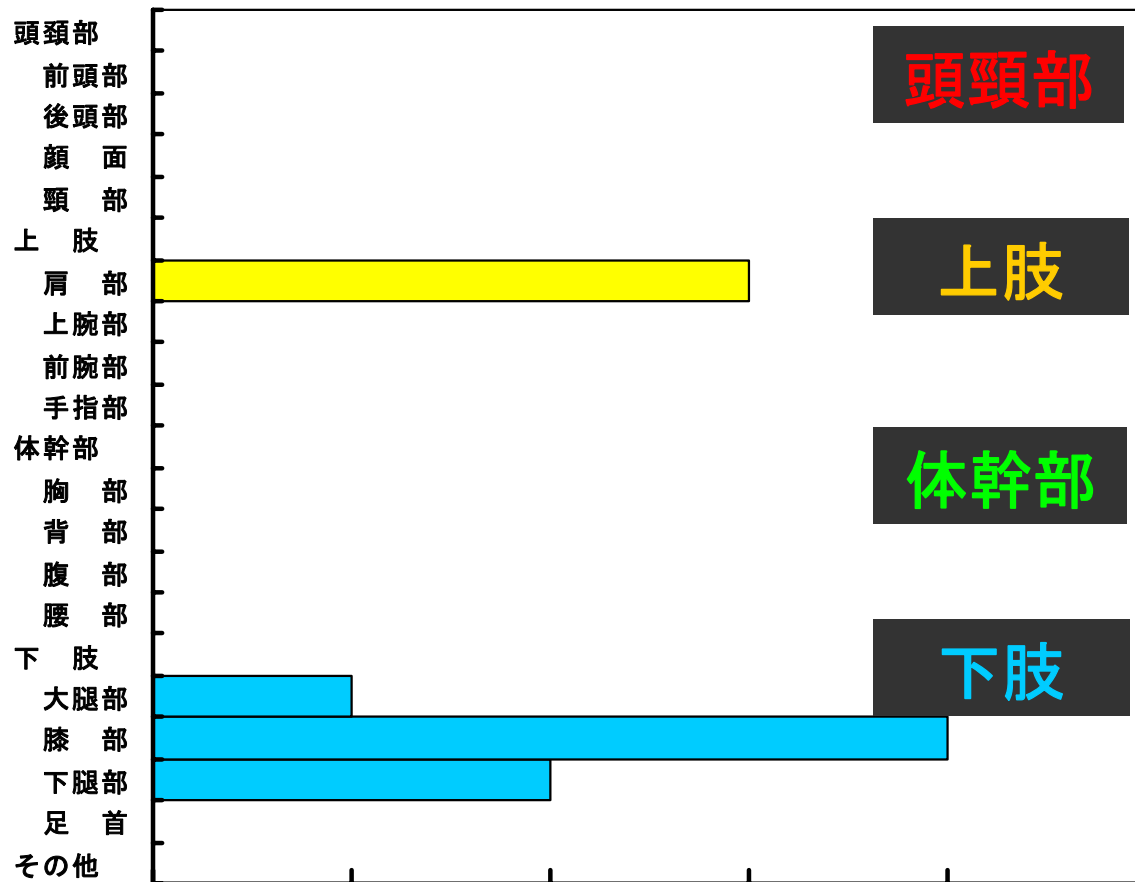
障害の種類

靭帯周囲の損傷の他
脱臼が増加傾向



受傷部位

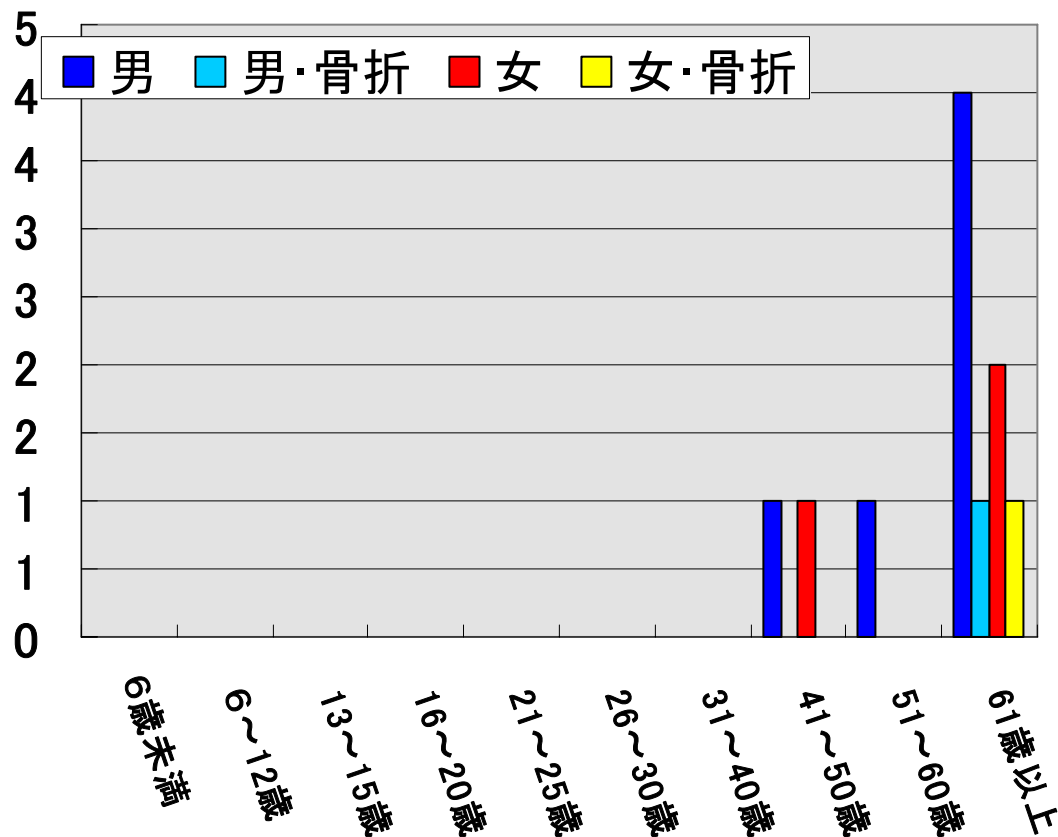
膝の傷害が
非常に多い



年齢別、性別の骨折の割合

傷害の性差が縮小

スピード制御技術が
定着
多様なスキー操作
技術の習得過程で
傷害防止が必要



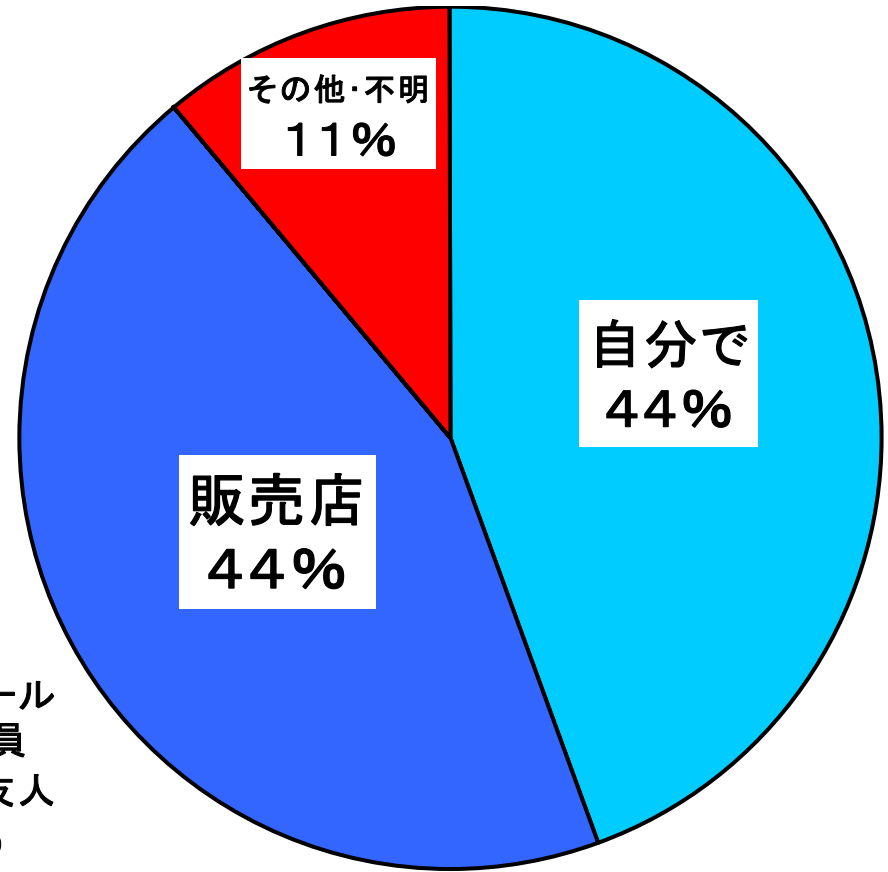
ビンディングの強度

強度は概ね適切

自己責任が
浸透してきた

PL法については
引き続き注意喚起

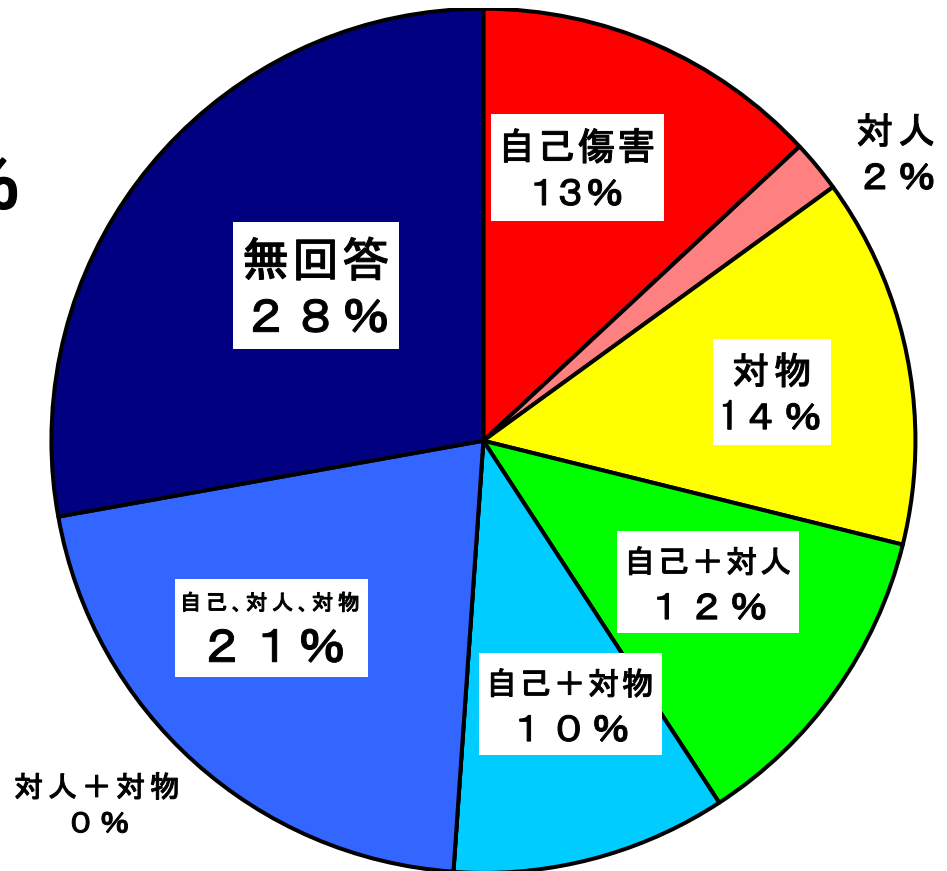
パトロール
指導員
知人・友人
0%



障害保険の種別

自己傷害・対物・対人の
3点セットは全体の21%

掛け金は高くない
3点セットで!!



スキー学校での配慮事項

- 受講生の状況の把握
- 他の講習グループとの位置関係に配慮
- 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- 用具の選択、調整の指導
- 適切な保険への加入

指導者の配慮事項

- 指導者はヘルメット・帽子をかぶっていますか？
- 講習場所の安全に配慮していますか？
- ストックを振って合図していませんか？
- 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- 多人数を一列で滑らせていませんか？
- リフトのセーフティバーの正しい使い方、ストックの安全な持ち方を指導していますか？
- 各指導者は事故に対処できますか？
- 事故時の連絡体制を確立してありますか？

報告書の書式が変わりました。

㊟-3 1 / 3

財団法人 東京都スキー連盟会長 殿

スキー傷害事故報告書

必要事項を記入し、スキー学校報告書と共に必ずご提出ください。
また、事故発生時は負傷者1名につき1枚ご提出ください。
この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号 検定共催番号
団体番号 団体名: _____

実施期間: 20 年 月 日 (曜日) ~ 20 年 月 日 (曜日)

実施場所: 道・県 / _____ スキー場

講習総人数: 名

講習班数: _____ 班 / 1班平均: _____ 名

安全対策担当者氏名: _____

No.	質問	回答	回答の選択肢
Q1	どの傷害保険に加入しましたか?		1. 自己傷害保険 2. 対人賠償保険 3. 対人対物賠償

該当するものをすべて記入してください。

ここまで全てに回答してください

傷害事故発生 有 無 → ありがとうございます

2 ページ目に続く

㊟-3 2 / 3

傷害事故発生日: _____ 年 月 日 (曜日) / 天候: _____

No.	質問	回答	回答の選択肢
Q2	傷害にあった人は?		4. 男性 5. 女性
Q3	その人の年齢は?		6. 6歳未満 7. 7~12歳 8. 13~15歳 9. 16~20歳 10. 21~25歳 11. 26~30歳 12. 31~40歳 13. 41~50歳 14. 51~60歳 15. 61歳以上
Q4	その人の技術は?		16. 指導者 17. 上級者 18. 中級者 19. 初級者 20. 初心者
Q5	その人の体格は?		21. 大きい 22. 普通 23. 小さい
Q6	その人は今シーズン、ケガをするまで何日くらい滞りましたか?		24. 0~3日 25. 4~6日 26. 7~10日 27. 11~15日 28. 16~20日 29. 21~30日 30. 31日以上
Q7	前日は良く眠った?		31. はい 32. いいえ
Q8	準備体操は?		33. 充分 34. 不十分
Q9	傷害の名前は?(左から重傷度の高い順)		35. 捻挫 36. 骨折 37. 脱臼・亜脱臼 38. 切創 39. 打撲 40. 刺傷・擦傷 41. 擦過傷・剝創 ・その他
Q10	Q9で「41」と答えた場合		具体的に記入してください。
Q11	傷害の部位は? (複数回答可)		42. 前頭部 43. 後頭部 44. 顔面 45. 頸部 46. 肩部 47. 上腕部 48. 前腕部 49. 手指部 50. 胸部 51. 背部 52. 腹部 53. 腰部、臀部 54. 大腿部 55. 膝部 56. 下腿部 57. 足背 58. その他 ()
Q12	Q11で「44、58」と答えた場合		具体的に記入してください。
Q13	医師に金銭的何日と言われましたか? 転倒が死亡の場合は右「死亡」を囲む		59. 7日未満 60. 8~14日 61. 15~20日 62. 21~30日 63. 31~60日 64. 61~90日 65. 91日以上 66. 乗診しなかった ※死亡
Q14	その傷害の発生は?		67. 講習中 68. 自由時間 69. 練習中 70. 競技中
Q15	傷害発生の時刻は?		71. 9時まで 72. 12時まで 73. 15時まで 74. 17時まで 75. ナイター 76. その他
Q16	Q15で「76」と答えた場合		具体的に記入してください。

3 ページ目に続く

No.	質問	回答	回答の選択肢
Q17	その時の雪質は？		77. 粉雪 78. 湿雪 79. 新雪 80. 深雪 81. ザラメ 82. アイスバーン 83. 踏み固めた雪 84. 溶けなかった雪 85. その他
Q18	Q17で「85」と答えた場合	具体的に記入してください。	
Q19	その時の斜面は？		86. 平地・緩斜面 87. 中斜面 88. 急斜面 130. リフト周辺
Q20	斜面の状況は？		89. スムーズ 90. ギャップ・コブ 91. ラフ 92. 深雪
Q21	その時のゲレンデは？		93. 混雑 94. 普通 95. 空いていた
Q22	ゲレンデの整備状態は？		96. 良い 97. 普通 98. 悪い
Q23	ケガをした直後の原因は？		99. 自己転倒 100. 衝突
Q24	Q23で「99」と答えた場合		101. 回転失敗 102. 人や物避けようとして 103. スピードの出し過ぎ 104. 技術以上の斜面
Q25	Q23で「100」と答えた場合		105. 自分から 106. 衝突された
Q26	衝突の相手は？		107. 人 108. 物(人以外のすべて)
Q27	Q25で「106」と答えた場合 相手の行動は？		109. 練習中 110. 自由時間 111. 練習中 112. 競技中
Q28	ケガをした時ビンディングは？		113. はずれた 114. はずれなかった
Q29	ビンディングの正しい調整方法を知っていましたか？		115. はい 116. いいえ
Q30	調整は誰がしましたか？		117. 自分で 118. 販売店 119. 指導員 120. バトロール 121. 知人・友人 122. その他・不明
Q31	Q30で「122」と答えた場合	具体的に記入してください。	
Q32	担当者から見てケガをした時の開放 強度は？		123. 強すぎ 124. 適切 125. 弱すぎ
Q33	スキーの種類は？		131. ノーマル(直板) 132. カービング
Q34	スキーの長さは？		133. レギュラー(130cm超) 134. ショート(100cm超 130cm以下) 135. ファン(100cm以下)
Q35	Q30・Q32について担当者の意見を 聞かせてください。 (スペースが見りないときは、別紙に記 入して添付してください。)		
Q36	その抱負付いた点、ご意見がありま したら聞かせてください。 (スペースが見りないときは、別紙に記 入して添付してください。)		

ありがとうございました。

新しい書式で御提出ください。